



(図1) Metavoid 31 2015年 長径198cm

秋山陽 アルケーの海へ

2016年4月2日[土]～7月24日[日]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132 <http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は7頁をご覧ください。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

さて、このたび、当館では、2016年度第一回目の展覧会として4月2日より7月24日の会期で、「秋山陽 アルケーの海へ」展を開催いたします。

現在、自身の母校である京都市立芸術大学で教授として後進の指導にあたる秋山陽（あきやまよう 1953-）は、1980年代から現代陶芸の最先端を走り続けている陶芸家です。

その作品は、黒褐色をした彫刻的な造形であり、黒陶、もしくは本焼き焼成後に鉄粉をほどこす手法でつくられています。マチエールやフォルムには土の物性が強く意識され、作品の寸法はやきものとしては破格のスケール感を持ち、小さな作品でもおよそ50センチ四方ほどあり、大型の作品ともなれば長径数メートルにわたります。土に潜む破壊と生成を体感させる表現は、素材やプロセスについての探究心と空間への関心からなり、ベルギーやニューヨークのギャラリーで個展が開催されるなど、国の内外を問わず高い評価を受けています。

本展では、新作、近作を中心に、80年代、90年代の代表作を加えたおよそ40点の作品により作家の造形世界をご覧いただきます。

つきましては、この展覧会を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

■■■展覧会概要■■■

- 展覧会名 「秋山陽 アルケーの海へ」展
- 会期 2016年4月2日(土)～7月24日(日)
- 観覧料 一般 1,000円／大学生 800円／小中高生 500円
- 主催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 会場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（ただし7月18日は開館）、7月19日（火）
- 展示内容 秋山陽の陶の造形作品およそ40点（新作、近作20点余、
および1980年代、90年代の代表作）

展覧会に関するお問い合わせ 担当：花里・島崎（☎03-5733-5131/FAX03-5733-5132）

■■造形の特徴について■■

■作家の軌跡：土との関係の再構築

秋山陽（あきやまよう 1953-）は、京都市立芸術大学の在学中から黒陶の技法で彫刻的な作品をつくっていました。しかし卒業後まもなく土でつくる必然を見失った時期があり、故郷の広島にある知的障害児施設で指導員を務めながら、子供たちが土に触れる姿を見て、土との関係を改めて見出していきます。

「土とは何か」と、土への意識を材料から粘土、泥、地面、土壌、大地、地球などへと押し上げた秋山が、そうした観点から引き出した土の表情は際立っています。たとえば、ヒビ割れた表現は、「みかんの皮をむくように土の表面を剥いたらどうなるか」と、バーナーで表面を炙って急速に乾燥させて亀裂を誘引したり、それを裏返したりしています。また、円盤状のものがうねうねと上昇するような柱状の表現は、ろくろを使って碗を引き重ねています。それらを組み合わせて作品にしています。

■造形に一貫するもの：土の物性と壮大なスケール感

作品は作風ごとにシリーズ化されており、作家活動を始めた1980年代から90年代にかけては、「準平原」「地質時代」「Zone」「Oscillation」など、大地をイメージさせる名称がつけられています。その後2000年代には、「Metavoid」「Heterophony」が加わり、この頃には、本焼き焼成後に鉄粉をほどこす手法も用いられるようになっていきます。

いずれの造形も土の物性を強く感じせ、壮大なスケール感を持っています。正面を敢えて設定しない全方向の形状には動きの気配があり、破壊と生成の余韻と予兆に満ちています。

* Oscillation=振動、変動、Metavoid=作家による造語で、Meta(超える)+Void(空間)、Heterophony=多声性を表す音楽用語

■原初的なもの（アルケー）への憧れ

かたちのない土にかたちを与え、土に潜む生命の萌芽のような、目に見えないもののかたちのなかに創出させようとすることは、子どもが無邪気な泥遊びや国造りの天地創造の神話を連想させます。

展覧会名に用いたアルケーという言葉は、原初、根源を意味します。原初的なものへの憧れや希求が発想の根底にあるという秋山の仕事は、根源や原理を探究する哲学者のようであり、作品は、折々の思考のかたちであるとも言えます。*アルケー=ギリシャ語で「原初、根源」の意味



(図2) Pho II 1990年 高181cm 愛知県美術館



(図3) 地質時代16 2000年 長径81cm



(図4) Heterophony 4 2009年 高102cm



(図5) Metavoid 30 2015年 高60cm

■作家略歴■

略歴：1953 山口県下関に生まれる／1976 京都市立芸術大学を卒業する
／1978 京都市立芸術大学陶磁器専攻科を修了する／**現在** 京都市立芸術大学教授、国際陶芸アカデミー会員、日本陶磁協会会員

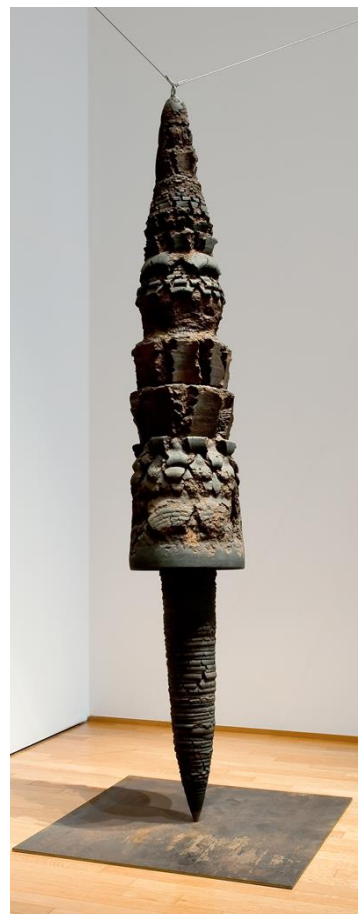
個展 (2001 年以降)：2004 世界のタイル博物館 (愛知)／2005 Frank Steyaert Gallery (アントワープ、ベルギー)、壺中居 (東京)／2008 村松画廊 (東京)／2009 アートコートギャラリー (大阪 2013-14 年)／2011 Joan B. Mirviss, Ltd. (ニューヨーク、USA 2007、2015 年にも開催)／2014 Galerie Pierre Marie Giraud (ブリュッセル、ベルギー 2010 年にも開催)

主な企画展、グループ展 (2005 年以降)：2005 Transformations: The language of craft (オーストラリア・ナショナル・ギャラリー、キャンベラ)／2006 Alternative Paradise～もうひとつの楽園 (金沢 21 世紀美術館／現代日本陶磁器展 (ジャパンソサエティ、ニューヨーク)／2007 土から生まれるもの (東京オペラシティアートギャラリー)／2009 第 5 回 World Ceramic Biennale 2009 Korea—Adventure of the Fire (利川世界陶芸センター)／2010 黒の物質 (世界クラフトカウンシル、モンス、ベルギー)／2011 オブジェー陶造形の潜勢力 (山口県立萩美術館・浦上記念館)／2012 ソンエリュミエール—物質・移動・時間 (金沢 21 世紀美術館)／2013 第 22 回日本陶芸展 (東京・大阪・茨城・福岡・愛知)

／2014 梅原猛と 25 人のアーティスト展 (高島屋、京都・大阪・東京・横浜・名古屋)、Tradition on Fire (サンフランシスコ・アジア美術館)、In to the Fold (ハーン美術館、USA)／2015 FAENZA ファエンツァ国際陶芸展受賞作家より (関口美術館、東京)、Unfolding Worlds (ヒューストン美術館、USA)、Collect (サーチギャラリー、UK)／2016 寺田コレクションの陶 (東京オペラシティ)

受賞：1984 京都美術工芸選抜展 買上賞 (85 年にも受賞)／1986'86 八木一夫賞現代陶芸展 優秀賞 (97 年読売賞、88 年優秀賞)／1989 第 46 回ファエンツァ国際陶芸展 買上賞／1992 京都市芸術新人賞、第 3 回「次代を担う作家展」準大賞／1994 第 12 回京都文化賞 奨励賞／1997 日本陶磁協会賞。／2001 第 19 回現代日本彫刻展 宇部興産賞／2006 現代の茶陶展 優秀賞。／2007 第 25 回京都府文化賞 功労賞、第 4 回円空大賞 円空賞／2008 第 21 回京都美術文化賞、第 17 回 MOA 岡田茂吉賞 工芸部門 大賞。／2010 現代の茶 造形の自由 優秀賞／2011 第 52 回毎日芸術賞／2014 京都新聞大賞・文化学術賞／2016 日本陶磁協会賞金賞

収蔵先：国内の国公立私立美術館 25 館のほか、ファエンツァ国際陶磁美術館、プラハ装飾美術館、チェコ共和国、エバーソン美術館 (USA)、ヒューストン美術館、ヴィクトリア&アルバート美術館、カナディアン・クレイ&グラスギャラリー、ケラミオン・フレッチェン (ドイツ)、国際陶芸スタジオ・ケチケメート (ハンガリー)、ボストン美術館、ミネアポリス美術館、ミント美術館 (USA)、スミス・カレッジ美術館 (USA)、アマローシ陶彫美術館 (ギリシャ)、バナキミュージアム (ギリシャ)、ホノルル現代美術館、セーブル美術館、ポートランド美術館、南オーストラリア美術館、ハーン美術館 (USA)、Chazen 美術館 (USA)



(図 6) Oscillation V 1998 年 高 295cm

■展覧会関連行事■

◆記念対談（観覧料のみ、聴講無料）

5月14日（土）午後3時より

当館 B1 階展示室にて

「土のエロス」 建畠哲氏（多摩美術大学学長、
埼玉県立近代美術館館長）＋秋山陽氏

◆秋山陽氏によるアーティストトーク

（観覧料のみ、聴講無料）

4月16日、7月16日

いずれも土曜日午後3時より

当館 B1 階展示室にて



（図7）準平原 881 1988年 長径 450cm 滋賀県立近代美術館

◆学芸員による ギャラリートーク（観覧料のみ、聴講無料）

4月9日／5月21日／6月18日／7月2日 いずれも土曜日午後2時より

以下、有料のイベントは事前申込み制（受付は智美術館 03-5733-5131 にて）

◆ナイトミュージアム①「能管の夜会—無音の音を聴く」

閉館後の展示室を会場に能管の演奏をお楽しみいただきます。

6月18日（土）午後6時30分より（開場は午後6時15分の予定）

演奏：藤田六郎兵衛氏（能楽笛方藤田流 11世宗家）

参加費＝3,000円（観覧料を含む。当日観覧券をお持ちの場合は2,000円。）

定員＝およそ50名（事前申し込み制）

◆ナイトミュージアム②「軽井沢演劇部による朗読劇」 *演目は美術館にお問い合わせください。

閉館後の展示室を会場に朗読劇をお楽しみいただきます。

7月16日（土）午後6時30分より（開場は午後6時20分の予定）

出演＝軽井沢演劇部（矢代朝子、山本芳樹〈Studio Life〉、岩崎大〈Studio Life〉、坂本岳大）

参加費＝4,000円（観覧料を含む。当日観覧券をお持ちの場合は3,000円。）

定員＝およそ60名様（事前申し込み制）

◆Let's Enjoy BLACK!!

当館併設のレストランにてBLACKなデザートやお飲物をお楽しみいただく特別鑑賞会です（学芸員のギャラリートーク付）。

5月28日（土） 「黒、食べちゃう?! 甘党の午後」 参加費＝3,000円（観覧料を含む。）

6月25日（土） 「黒、飲んじゃう?! 辛党のちょっと早い夕べ」

参加費＝3,500円（観覧料を含む。）

いずれも土曜日午後3時より 定員＝約15名（事前申し込み制）

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：花里、島崎）

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名：	
担当部署：	担当者名：
住所：	
電話	ファックス：
E-MAIL：	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名：
	発行日：
TV ラジオ	媒体名：
	放送日：
ネット	URL：

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年・撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	(図1) Metavoid 31 2015年 高さ34 径198×36cm (撮影:福永一夫) ※表紙の作品
<input type="checkbox"/>	(図2) Pho II 1990年 高さ181 径47×47cm 愛知県美術館
<input type="checkbox"/>	(図3) 地質時代 16 2000年 高さ53 径81×58cm (撮影:福永一夫)
<input type="checkbox"/>	(図4) Heterophony 4 2009年 高さ102 径99×96cm (撮影:豊永政史)
<input type="checkbox"/>	(図5) Metavoid 30 2015年 高さ60 径113×66cm (撮影:福永一夫)
<input type="checkbox"/>	(図6) Oscillation V 1998年 高さ295 径48×39cm (撮影:豊永政史)
<input type="checkbox"/>	(図7) 準平原 881 1988年 高さ70 径450×180cm 滋賀県立近代美術館 (撮影:林雅之)

●読者プレゼント用チケット希望： 5組10名様 10組20名様

プレスレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスレビュー 2016年4月1日(金) 14:00～

14:00～14:45 秋山陽氏にご参加いただき、展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1
・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6分
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8分
・南北線/銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8分
・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAXにて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
Email	